

「会社活動」がスタートしました

多くの学校では「委員会活動」と言いますが、立会小学校では「会社活動」と呼びます。5・6年生が、特別活動（品川区では市民科）の一つの取り組みとして、「自分たちの学校生活をよりよくするために、何らかの成果が上がるよう取り組みを工夫する」ことを目指して、「会社活動」と名付けています。前任の田邊校長の発案でスタートしたと聞いています。



先週木曜日に、体育館で、6年生が5年生に向けて自分が所属する会社の取り組み内容の紹介をしました。会社は全部で10社あり、その中のどれか一つに所属します。6年生は、事前にメンバーで相談して、会社の仕事内容ややりがい、楽しさなどを5年生に向けてアピールをしていました。5年生は、その内容から、自分がやりたいことを選び、所属が決まります。

5年生は前期後期で所属が変わりますが、6年生になると1年間通して一つの会社を続けます。5年生は、体験をすることがねらいの中心で、6年生は、責任を持つことと主体性を育てることをねらっているからくる期間の違いなのだと思います。

「立会ラジオ」「立会 HEALTH カンパニー」「品川地域会社」「給食会社」「立会整美会社」「T.K.C（体力向上カンパニー）」「リクレーション会社」「立会生活会社」「アイライクブックコーポレーション」「立会動物会社」という10の会社があります。例えば、「放送委員会」なのではなく、「立会ラジオ」という名前で活動するというのを、子どもたちはどこまで意識しているでしょう。この活動のねらいにあるように、何らかの成果を上げるような活動にするということで考えるならば、年度の始めの方で、「得ようとする成果とは何か？」つまり「自分たちに活動の具体的な姿だけでなく、何をもって成果ととらえるか」を明確にする必要があります。単に学校から与えられた業務を下請け的にするのではなく、主体的に取り組ませようということは、そういうことなのだと思います。実は、これは言うほど簡単なことではありません。会社によってもその難易度は違ってきそうです。担当教員も各教員に説明していましたが、児童任せにするのではなく、児童のアイデアを上手に引き出しながら、活動の方向性を明確にしてあげる大人の役割は大きいと思っています。

昨日が第1回の顔合わせで、活動の方向性の確認をしていました。どの会社も、社員が生き生きと主体的に「成果を上げること」を目指して活動を活発にしていってほしいと思います。立会小学校の特色ある教育活動の一つであると、子どもたちが自信をもって言える取り組みに育つといいなと願っています。